

平成24年度 大樹町の航空宇宙関連実績報告

○平成24年度実績 ※経済効果は、実験日数や人数を基に、大樹町企画課が試算した結果です。

年度	実験数 利用数	実験のべ 日数	実験のべ 人数	視察 件数	視察 人数	経済 効果	大樹町への 経済効果
H24	35件	349日	約5,100人	63件	約700人	約1億7千万円	約1億1千万円
H23	21件	307日	約4,400人	21件	約500人	約1億5千万円	約9千万円



大樹漁港（浜大樹）（H24.7 JAXAヘリから撮影）

平成24年度、大樹町多目的航空公園では、「大気球実験（No.3で紹介・JAXA）」をはじめ、「CAMUI型ロケット・SNS社製液体ロケット打上げ実験（No.4で紹介・HASTICなど）」・「i-Ball通信実験（No.5で紹介・IHIエアロスペース）」・「無人機飛行実験（No.6で紹介・JAXA）」など様々な実験が行われました。また、大樹町多目的航空公園を利用したイベントとして、「第8回マイクロライト日本選手権大会」が開催され、全国各地から約85人の選手・関係者が大樹町を訪れ、操縦技術・着陸技術などを競い合いました。

大樹町多目的航空公園での実験・利用の件数は「35件」となり、のべ「約5,100人」の方が実験・利用しました。



マイクロライト日本選手権大会（H24.6）

また、「約700人」の方が大樹町多目的航空公園の視察・見学を訪れ、施設見学・実験見学・町の取組紹介などを実施しました。

航空宇宙実験等による経済効果試算結果は、「約1億7千万円」となり、宿泊や食事などによる大樹町への経済効果試算結果は、「約1億1千万円」となりました。

昨年度の実績と比較した場合、のべ人数は「約16%増加」・視察人数は「約40%増加」・経済効果は「約20%増加」となりました。

増加の理由としては、広大な土地や実験環境が整っている国内有数の航空宇宙実験のフィールドとして、様々な方に認知され、関係者の中でも高評価を受けていることや航空宇宙への関心が高まっていることなどが挙げられます。

これも町民の皆様から、ご理解・ご協力をいただいているおかげです。厚く御礼申し上げます。

平成25年度も、今年度同様に数多くの航空宇宙関連実験が予定されており、新たな実験として、小惑星探査機「はやぶさ2」の関連実験も予定されています。

国内有数のフィールドを最大限に活用し、誘致活動や実験支援を続けていきますので、引き続きご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。



大樹小学校3年生航空公園見学（H24.6）



東海大学 学生ロケットプロジェクト



TSRP-H-29

平成25年3月8日から14日に、東海大学学生ロケットプロジェクト（計24名）による「ハイブリッドロケット打上げ実験」が実施されました。大樹町での実験は、昨年2月以来9度目となりました。今回の実験では、2機の打上げを実施しました。11日に上げられた1機目（TSRP-H-29）は、高度約350mまで到達し、無事に回収されました。12日に上げられた2機目（TSRP-H-30）は、高度約600mを目指して打ち上げたものの、飛行中に機体のトラブルがあり、計画どおりの飛行となりませんでした。プロジェクトマネージャーの坂野文菜（ばんの・あやな）さんは、「両機ともに少しトラブルがあったが、トラブルのおかげで改善点を見つけ出すことができたので、来年度以降の開発に生かしていきたい。」と語っていました。



TSRP-H-30

航空宇宙コラム

今回は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所学際研究系研究主幹であり、大気球実験室長である吉田哲也（よしだ・てつや）教授に寄稿をいただきました。

大樹町での大気球実験を始めて5年が経ちました。最近の気候不順の影響もあり、決して順風満帆という訳ではありませんが、町の皆さんにご協力いただいて、大学の研究者等による数々の宇宙科学実験を続けてこられました。

大樹町での大気球実験では、太平洋に面した広大な実験場に日本独自の放球装置を設備したことで、大型で重い実験装置を高高度に運ぶことができるようになりました。

この特徴を生かして、理学観測実験に加えて多くの工学実証実験が行われています。

平成25年度には将来の火星探査で飛行機を利用することを見据えた火星飛行機の飛行実験が予定されています。

こうした大気球実験は、若手の研究者や大学院生が、実験を考案し、装置を製作し、実験を実施し、取得データを解析して成果を発表するという研究者として必要な研究遂行能力を習得する大切な場にもなっています。

これからも多くの研究者や大学院生が大樹町で研鑽を積んでいくこととなりますので、皆さんの応援をお願いします。

～今後の実験予定～

- 4月21日～5月6日
繫留気球通信伝送試験（スカイプラットフォーム）
- 4月22日～26日
小型固定翼無人機飛行実験（JAXA）

※視察・見学を希望の方は、必ず事前に大樹町役場企画課まで連絡してください。なお、安全確保上、視察・見学をお断りする場合があります。



タイキ君 先月ロシアに隕石が落ちて多くの被害が出たニュースにはビックリしましたね。

久齋先生 隕石が上空で爆発分裂し、スピードも超音速だったため、地上に衝撃波が降り注いだようじゃな。数10km以上の広い範囲に影響が出たようじゃ。十勝で3番目、全国でも62番目に広い面積を持つ大樹町の大きさが「東西57km、南北34km」くらいじゃから、大樹をすっぽり包むほどの広範囲ということになるのお。

タ 隕石ってどこからやってくるのですか？

久 宇宙空間を飛んでいる小惑星のカケラなどが地上に落ちてきたものが隕石なんじゃ。北海道では1925年に美唄市で発見されたものが知られておるのお。地上に達するまでに蒸発したりバラバラになったりせずに塊のまま発見された隕石は宇宙の情報をたっぷりと含んでおるので、宇宙を調べるための重要な手掛かりでもあるんじゃよ。似たような現象に流れ星というのものもあるのお。

タ 流れ星って神秘的ですよええ！でも、見とれてしまってなかなか願い事を3回も唱えられないんですよ～。

●平成25年度に行われる主な実験予定（H25.3現在）

- ・大気球実験（JAXA・①H25/5-H25/6、②H25/7-H25/9）
- ・繫留気球通信伝送実験（スカイプラットフォーム・H25/4-H25/5）
- ・小型固定翼無人機飛行実験（JAXA・H25/4-H25/11）
- ・「はやぶさ2」ライダー実験（JAXA・H25/5）
- ・先進形態VTOL無人機飛行実験（JAXA・H25/7、H25/10）
- ・飛行船保守（エアロノーツ・H25/6-H25/7）
- ・CAMUI型ロケット等打上げ実験（HASTIC他・H25/7）

発行：大樹町企画課企画係

〒089-2195

北海道広尾郡大樹町東本通33番地

電話：01558-6-2113

HP：<http://www.town.taiki.hokkaido.jp>

